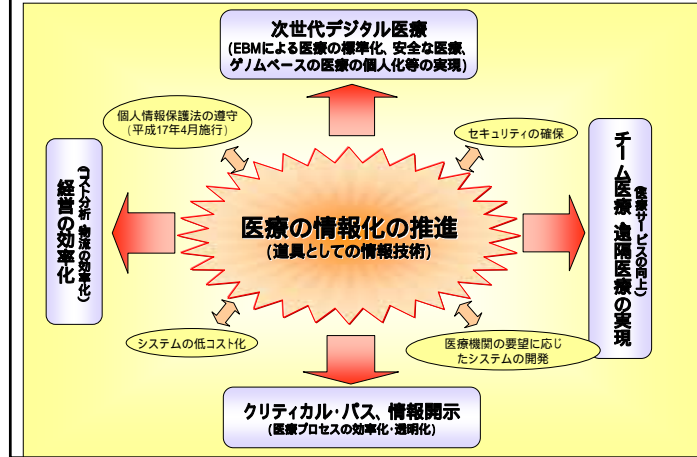


経済産業省における 医療情報化施策の概要

平成17年9月16日

経済産業省商務情報政策局
医療・福祉機器産業室

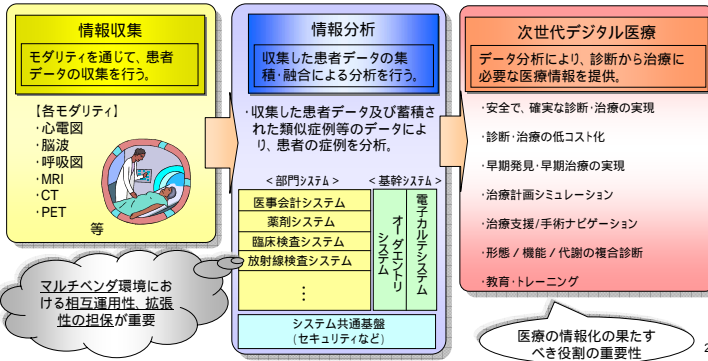
医療分野の情報化の意義



次世代デジタル医療の実現に向けて

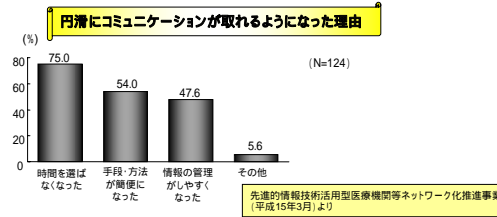
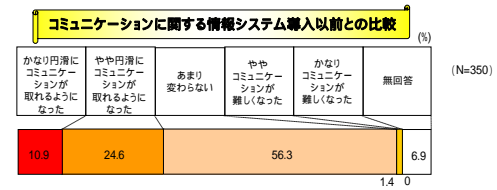
画像診断機器等、それぞれのモダリティを通じて収集された患者の膨大なデータを分析することによって、治療計画シミュレーションへの活用等、次世代デジタル医療の発展を視野。

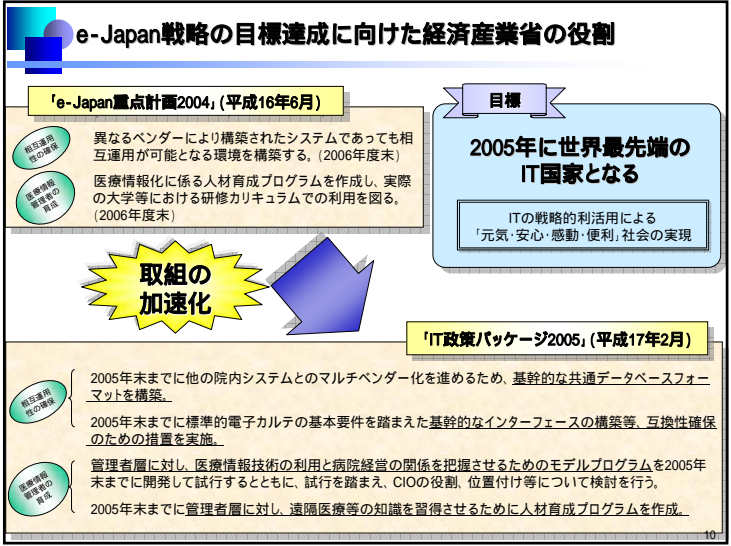
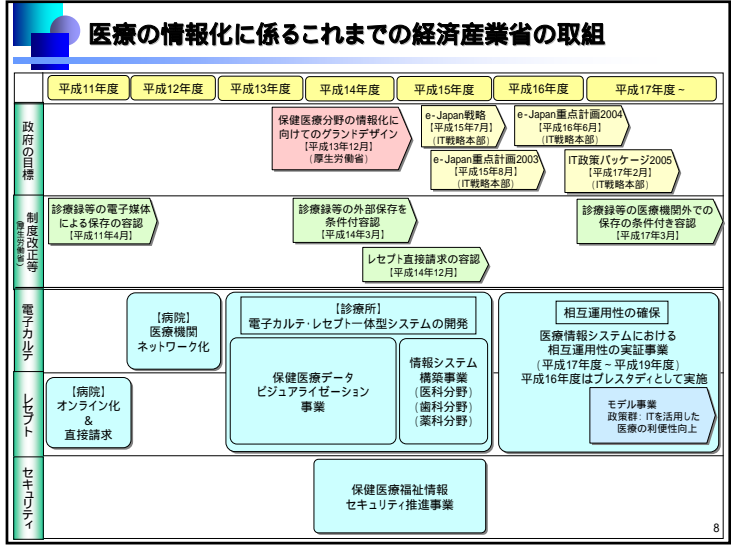
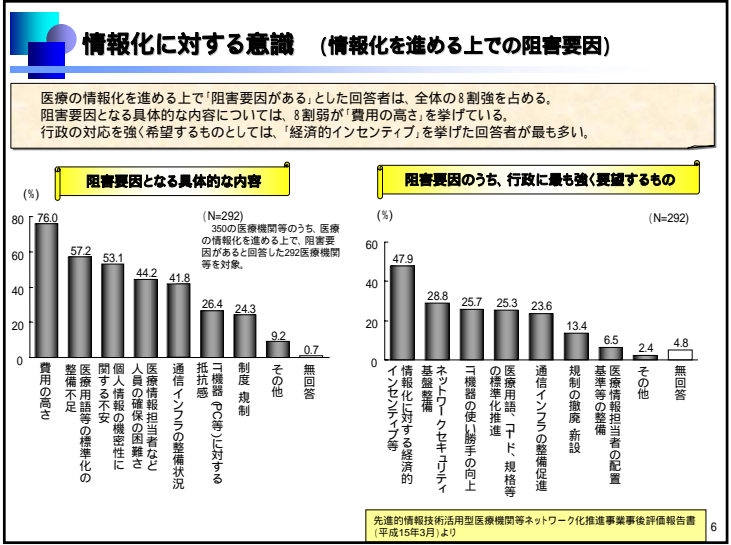
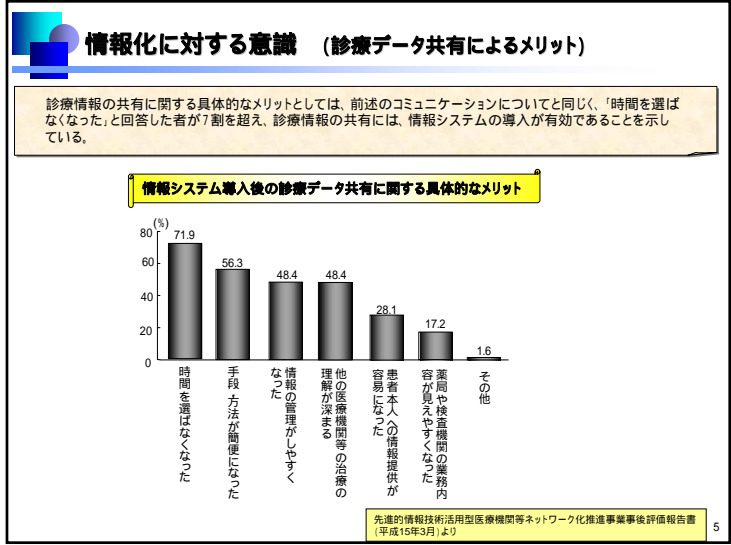
EBMによる医療の標準化、ゲノムベースの医療の個人化等の推進にも寄与。



情報化に対する意識 (情報化とコミュニケーション)

コミュニケーションに関する調査では、4割弱の回答者がコミュニケーションが円滑になったと回答。理由としては、「時間を減らなくなった」ことを多くの回答者が挙げている。



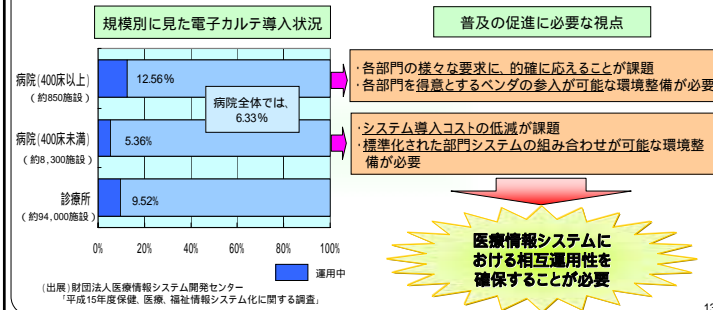


医療情報システムにおける相互運用性の実証事業

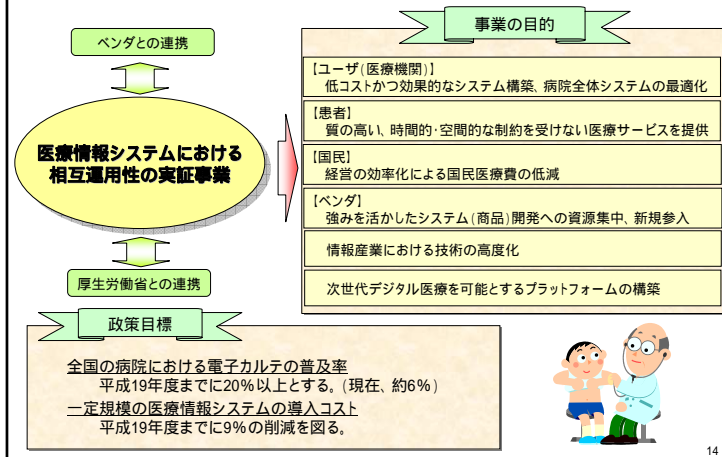
情報化の現状認識と相互運用性確保の必要性

現在、「e-Japan重点計画」等の目標達成には遅い状況。今後、一層の取組の加速化が必要。

医療情報システムの導入の現状

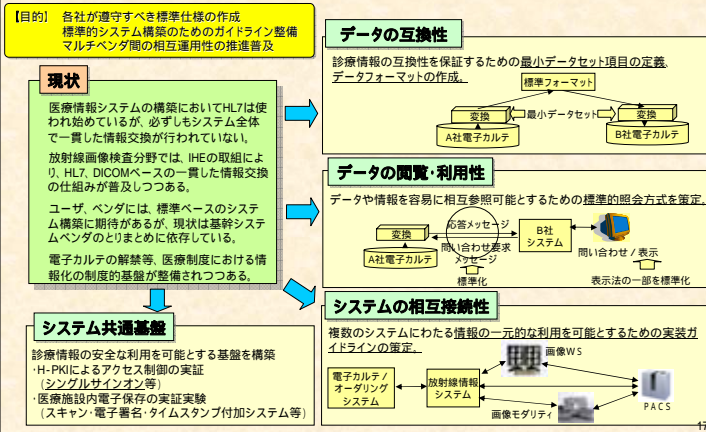


医療情報システムにおける相互運用性の実証事業の目的



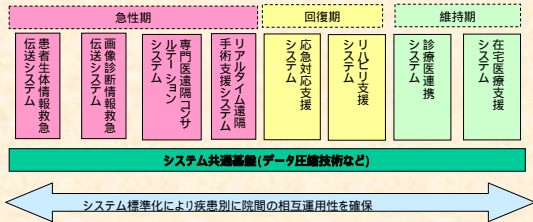
医療情報システムにおける相互運用性推進普及プロジェクト

(JAHSの産業界委員会資料より)産業界標準にて作成



地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業

地域医療情報連携システムのイメージ



<効果>

システムの標準化により、異なるベンダによるシステム間であっても接続が容易化することにより、システム導入コストの低減等が図られ、地域医療情報連携システムの医療機関への普及が促進する。患者の疾患や病期に応じて、地域で最良の診療を切れ目なく受けられるようになるため、死亡率や後遺症率の低下など患者本位の質の高い医療の実現に向けた環境が整備される。システムの標準化により、多様なシステムベンダの新規参入が促進されるなどマルチベンダ化が進展することにより、システムの質・性能の向上が図られる。